

2006 年頭のあいさつ

新年明けまして
おめでとうございます

普代村長 深渡 宏
ふかわたり・ひろし



新年明けましておめでとうございます。今年一年が村民の皆さんにとって輝かしい年でありますよう、心からお祈りいたします。

また、常日ごろから村づくりにご支援、ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

顧みますと、昨年末からかつてないほどの山積する課題を抱えたまま、新しい年を迎えたように思います。国内では、未だ解決の見られない北朝鮮問題やイラク戦争などの国際問題、歯止めのかからない少子高齢化問題、さらに地震列島・日本であってはならない耐震強度偽装問題など、挙げれば切りがないほどです。

中央では景気回復の兆しが見込まれているものの、地方においては依然として、実感が感じ

希望のふるさとづくり

村民の皆さんと協働誓う

られない状況です。それに加え今後は大増税の兆しもあり、まさに今の日本は先行き不透明で、国民生活に不安を抱える人も少なくないと感じております。

村においても国からの地方交付税の総額抑制、補助金の削減など、なお、厳しい状況に立たされています。これからはさまざまな事業の中から「選択と集中」を行う時代に入ってきております。

しかし、暗い話題の続く中、スポーツでは普代中学校の活躍、さらに、普代村からのプロ野球選手の誕生は、村だけでなく、岩手全土、東北全体を活気づけました。

4年目を迎えた「ふだいまるごと海産まつり」も、村内外から村の人口を超える4千人以上が

訪れるなど盛況に終わることができました。開発を進めている養殖コンブの未利用資源の堆肥化も順調に進んでおります。いずれの取り組みも、みんなの大きな財産として育ってきたと確信できるものです。

市町村合併につきましては、久慈地区では1月1日に旧種市町と旧大野村が合併し、洋野町が誕生しました。これにより県内では58市町村から41市町村となりました。当面は自立を選択した本村は、前年度、第四次の行財政改革大綱と同プログラムを策定し、本年度約1億円の削減に取り組み、その目標も達成に近づいています。これも村民の皆さんのご理解とご協力があったることと感謝しております。

今後も、新たな道筋を探りながら、改革プログラムを着実に推進し、みんなでの普代村の最善の道を切り開いていかなければなりません。

新春を迎えたものの、記録的な大雪で被害に遭われている地域や、悲しい犯罪などが報道されていますが、この先行き不透明な厳しい試練の時代に、これまでみんなで築き上げてきたこの地域を、さらに、安心して暮らせる普代村とするために、村民の皆さんとともに「協働」の精神で、着実に躍進する年とすることを誓い合いたいと思います。

今後も、村民の皆さんの、一層の村づくりへの参加、ご協力をお願い申し上げますとともに、今年一年の皆さんのご多幸とご健勝を心から祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。